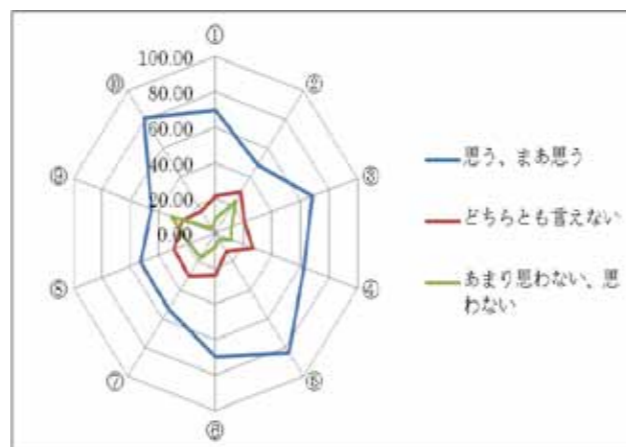
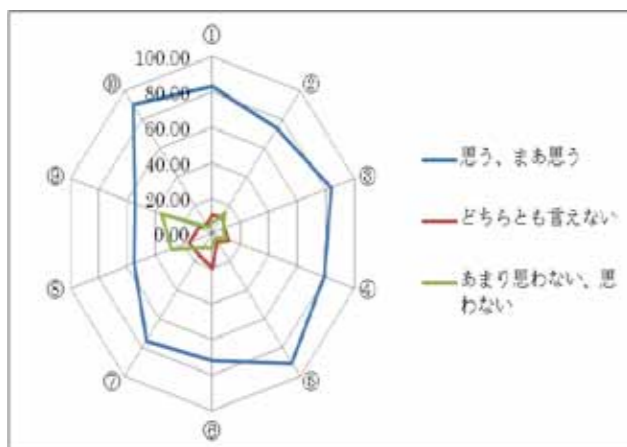


質問：考えたり、話し合ったりして学び合う授業ではどんなことを感じていますか。

- ① 友達の考えを聞くことが楽しい ② 自分の考えを話すことが楽しい
 ③ 話し合うことが楽しい ④ 「学び合う学習」をすると、友達と仲良くなれる
 ⑤ 自分では考えつかない考えを友達から知ることができるので勉強になる
 ⑥ よく分かる・理解が深まる ⑦ 自分から進んで学習できる、やる気が出る
 ⑧ 意見が出なくて困る
 ⑨ 間違えたり、笑われたりしないか心配で、自分の意見を出しにくい
 ⑩ クラスの仲がよい方が、「学び合う学習」がやりやすい

(上沖小学校)

(大沼中学校)



分析

- ・「⑤ 自分では考えつかない考えを友達から知ることができるので勉強になる」、「⑩ クラスの仲がよい方が、「学び合う学習」がやりやすい」と感じている児童生徒が、全体の約80%いる。
- ・小学校、中学校ともに学び合う学習で、「⑧ 意見が出なくて困る」、「⑨ 間違えたり、笑われたりしないか心配で、自分の意見を出しにくい」と感じている児童生徒が多い。
 → 授業で意見が出しやすい雰囲気をつくるとともに、一人一人の意見が大切にされる授業や学級経営を意図的に推進していくことが大切である。
- ・「② 自分の考えを話すことが楽しい」、「⑦ 自分から進んで学習できる、やる気が出る」と肯定的に回答する児童生徒が、小学校から中学校にかけて減少している。
 → 話すことや学習への意欲が高まるような、学習展開(課題の提示、一人学び、グループ交流、全体交流など)の工夫が必要である。

次年度に向けて(校内授業研究会や合同研修会から)

- ・単元の構成や授業の導入を工夫し、児童生徒の学習意欲を基盤にした授業を展開する。
- ・話し方や聞き方のスキルをさらに向上させ、交流する意図を明確にして、自分との違いを知り、お互いに学び合うことの楽しさを味わわせる。
- ・交流の中で子どもたちの考えを高めていくための手立てを考えていく。
- ・評価をする際に、具体的な児童の姿をより明確にしていく。
- ・自力解決を大切に思考の場を1単位時間の中に設定することで、自分の考えを他者と比較しながら深めていけるようにする。
- ・小中連携を念頭に置いた年間指導計画を作成する。

研究紀要



平成27年2月13日(金)

埼玉県春日部市立上沖小学校

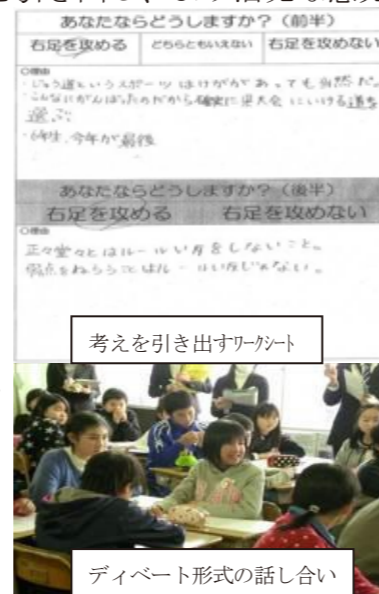
埼玉県春日部市立大沼中学校

平成26年度の実践

上沖小学校

1. ディベートの手法を取り入れた話し合い

- (1) 道徳 主題名 勝負とは何か 資料名 「どうする？ 健？」
(出典 モラルジレンマ資料と授業展開 小学校編 荒木紀之著)
- (2) ねらい
希望・勇気・強い意志・向上心・思いやり・誠実などに関わる内容を通して努力することの大切さや誠実であることの意味について話し合い、道徳的な思考や判断力を高める。
- (3) 実践から
登場人物に感情移入し、自分ならばどうするか置き換えることで、しっかりと考えを持たせた。また、葛藤状況別にディベート形式で多くの児童の考えを引き出し、より活発な意見交換をさせることで、考え、話し合い、学び合う学習に迫った。
 - 相手の弱点を「攻める」、「攻めない」の双方向から考えをまとめ、互いに聞き合うことで、新たな視点で主人公の気持ちを見つめることができた。
 - 一斉授業の話し合いではなく、自分の立場をどう相手に納得させるかというディベート形式の話し合いは、より説得力のある意見を思考する必然性を児童に持たせることができた。
 - 最後に、話し合いを通して考えの変化を文章にまとめる活動を取り入れたことで、児童の道徳的な見方を確実なものにし、道徳的な見方の向上が感じられた。



2. グループでの活動や話し合い

- (1) 算数科 比例と反比例
- (2) ねらい
二量の関係に一定の決まりがあり、文字式でそれを表せることを知る。
- (3) 実践から
 - つかむ段階で習熟度に応じたヒントカードを活用し、どの児童にも自力解決の糸口を見出す配慮をした。
 - 解決までの流れをわかりやすくし、思考しやすくなるよう、図や表、グラフなどを活用し、矢印や吹き出し、色分けなど視覚に訴えるノートを作成した。児童は、相手に分かりやすく伝える手立てを工夫することができた。
 - 友達の発表のよさや自分との相違点を聞くという話し合いの視点を明確に示したことで、話型を身に付けさせることができた。



3. 成果と課題 (◎成果 ▲課題)

- ◎課題の提示を工夫し、考える時間を保証し、手立てを示したことで児童は自分なりの考えを持てるようになってきた。
- ◎話し合いの話型を身に付け、ペア、グループ、ディベートといったさまざまな話し合い活動を学年の発達段階に応じて行った結果、話し合いの技能が高まった。
- ▲他の意見を知り、自分の考えに反映させることに課題が見られた。

大沼中学校

1. グループでの活動や話し合い

- (1) 国語科 登場人物の役割を考えて読もう「握手」・「みどり色の記憶」
- (2) ねらい
メモをもとに自分の考えを伝え合い、人物相関図を作る
- (3) 実践から

本時の授業では、「メモをもとに自分の考えを伝え合い、人物相関図を作る」ことをねらいとし、登場人物同士の関わりやその根拠となる描写を見つけることで、生徒一人一人に「わかる」「伸ばす」授業を展開していくこととした。

また、そのための方策として、各自でメモを作成し、それをもとに小グループをつくり、互いの考えを伝え合う活動を取り入れることとした。そして、「個の考えの確立」→「他者との交流（考察・見直し）」→「一人一人のより深い理解」という流れを通して、生徒一人一人に「学びの実感」を持たせる時間となるようにした。



2. 学級全体で発言をつなげる話し合い

- (1) 数学科 平行と合同
- (2) ねらい
星形五角形の5つの角の和の求め方を理解し、適切、簡潔に説明することができる
- (3) 実践から

本時の授業では、「星形五角形の5つの角の和の求め方を考える」ことを課題として提示し、「全体での課題把握」→「個による解決方法の検討」→「グループでの解決方法の検討」→「全体での課題解決」という流れで解決することとした。

以上の活動を通して、「個による解決方法の検討」では、既習事項をもとにした演繹的な考察を行い、自分の考えを図にまとめた。「グループによる解決方法の検討」では、生徒同士が助言し合い、他者の多様な解法を理解し合うことができた。生徒一人一人に「学びの実感」を持たせると同時に、個あるいはグループの考えをわかりやすく伝えるための表現を工夫させることにより、言語活動の充実も図れるよう配慮した。



3. 成果と課題 (◎成果 ▲課題)

- ◎「個人の考えの確立」→「学び合い（考えの吟味とより良い考えの産出）」→「個人での学習の確認と振り返り」という「学び合い」の基本形について、共通理解が図られた。その結果、授業改善に結びつけることができた。
- ◎どの教科も課題を明確にし、発問や指示を工夫したことにより、生徒は既習事項や体験を踏まえて個の考えを確立させることができた。
- ▲生徒が考えるとは、よい話し合いとはどういうものか、「学び合い」のイメージは、教科によって変わってくる。各教科の授業実践を積み重ねることにより、教科ごとに学び合いのイメージを具体化していく必要がある。
- ▲様々な場面で、生徒が話し合う機会を増やすなど、さらに「学び合い」を充実させていく必要がある。